

地 理

第 1 問

世界規模の事象の分布や変化に関する以下の設問 A～B に答えよ。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入せよ。

設問 A

人獣共通感染症とは、人とそれ以外の動物の両方に感染または寄生する病原体により生じる感染症である。人獣共通感染症の発生件数は、1980年代から2000年代にかけて4倍に増加しており、その背景には、a)動物性タンパクの需要増加と畜産の拡大、b)人と野生動物との接触機会の増加、c)土地利用形態の変化、d)地球温暖化、などが要因として挙げられている。

これらの要因の関係をモデル化し、野生動物に由来する人獣共通感染症の発生リスクを示したのが図1—1である。分析が行われた2017年時点で、野生動物に由来する人獣共通感染症が発生しやすい地域が可視化されている。

- (1) 人獣共通感染症の増加の要因のうち、上記の a)～d) 以外の社会経済的要因を1つ答えよ。

- (2) d)の地球温暖化がどのように人獣共通感染症の増加に影響するか、以下の語句をすべて用いて、2行以内で説明せよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

媒介生物 気象災害

(3) 図1—1で南アジア・東南アジアから東アジアにかけての地域が高リスク地域となっている。この理由を、この地域の自然環境と生業の観点から3行以内で説明せよ。

(4) 日本も野生動物に由来する人獣共通感染症の発生リスクが高いことが図1—1から読みとれる。また、日本では近年発生リスクがさらに高まりつつあると考えられているが、その主要な原因を、前記のb)人と野生動物との接触機会の増加、c)土地利用形態の変化、と関連づけて2行以内で説明せよ。

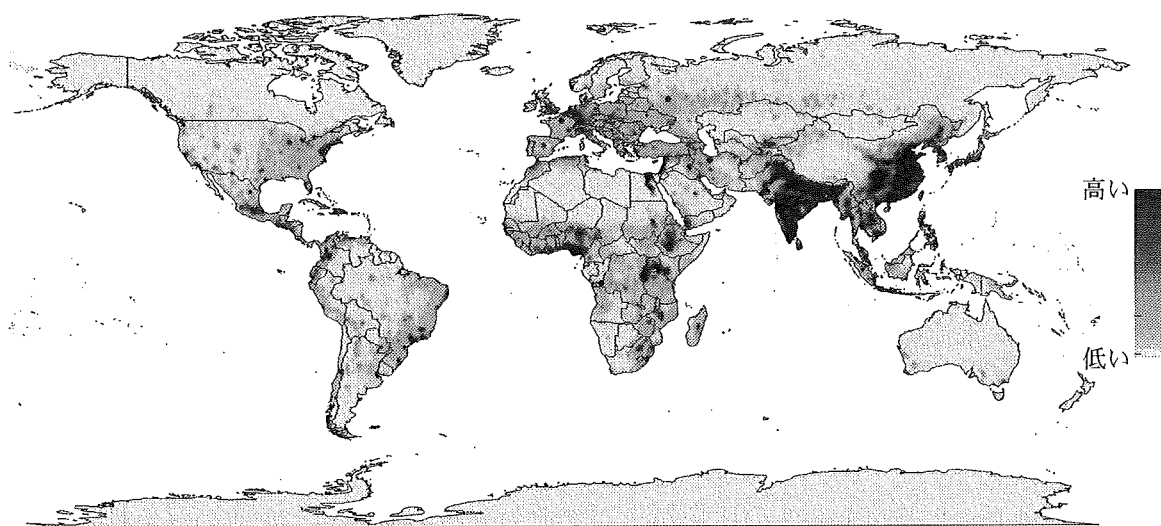


図1—1

Allen ほか，2017 による。

設問B

図1—2は1784～1863年の80年間における船の航路を、図1—3は1980～1997年の18年間における船の航路を示した地図である。二つの図は、船上での定期的な気象観測の記録や航海日誌などに記載された船の位置を、線でつないだものである。海岸線などの他の情報は描かれていないが、多くの場所で大陸の概形を読みとれる。

- (1) 図1—2では、赤道付近と中緯度において水平な帯のように見える航路の集まりが見られる。これは、ほぼ特定の緯度に沿って船が移動する傾向があったことを示す。この理由を、当時の船の構造も考慮して2行以内で述べよ。
- (2) 図1—2は図1—3よりも対象とする期間が長いにも関わらず、航路の密度が低く、19世紀以前の水運は近年よりも規模がかなり小さかったことを示す。ただし、図1—2の時期にはかなり活発であったが図1—3の時期にはすたれた水運の経路も読みとれる。すたれた経路の例を挙げ、その理由とともに2行以内で述べよ。
- (3) 図1—2と図1—3の比較から、水運の分布の拡大や、水運の経済性を高めるために行われてきた技術的な進歩を読みとることができる。その内容を、以下の語句をすべて用いて3行以内で説明せよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

高緯度 等角航路

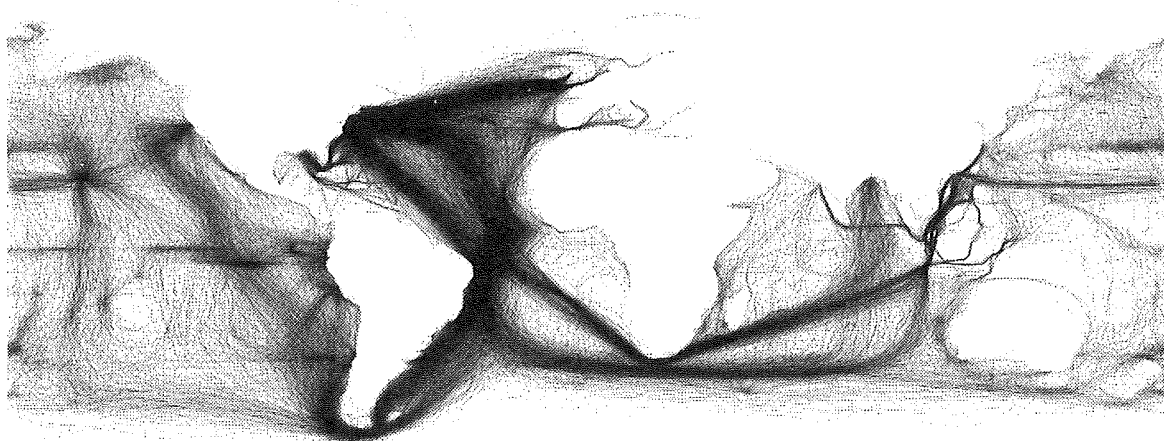


図1—2

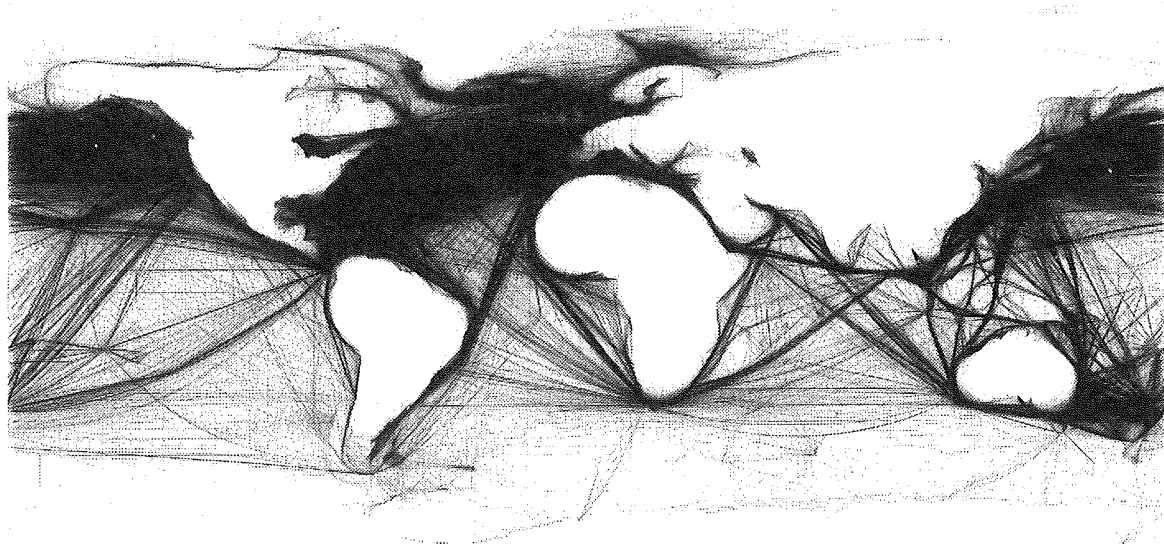


図1—3

図1—2と図1—3は、どちらもアメリカ海洋大気庁のデータを用いて Ben Schmidt氏が作成した地図による。

第 2 問

南北アメリカの経済と社会に関する以下の設問 A～B に答えよ。解答は、解答用紙の(口)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入せよ。

設問 A

図 2—1 は、アメリカ合衆国(アラスカ・ハワイ両州を除く)の州別の人口変化率(1970～2010 年)を示したものであり、表 2—1 は、4 つの州の人口構成をまとめたものである。以下の問いに答えよ。

- (1) 1970～1990 年と 1990～2010 年に分けて人口変化率を見ると、ア州では 49.1 % から 25.2 % へと増加率が半減しているのに対し、隣接するイ州では 107.0 %、74.4 % と増加率は高い水準を維持している。両州でこのような違いが生じた理由を 2 行以内で述べよ。
- (2) ウ州とエ州は共に 75 歳以上人口比率が高いが、その背景は大きく異なる。それぞれの州で 75 歳以上人口比率が高くなる理由を、両州の違いが分かるように 2 行以内で述べよ。
- (3) 中西部に位置する多くの州では人口増加率が低い。これらの州の中心都市では、基幹産業の斜陽化、およびそれが引き起こした社会問題によって人口減少に拍車がかかっている。こうした社会問題として考えられることを 2 つ、合わせて 1 行で述べよ。
- (4) エ州は、中南米諸国と国境が接していないにもかかわらず、ヒスパニック系人口の比率が高い。このような状況をもたらした政治的理由を 1 行で述べよ。

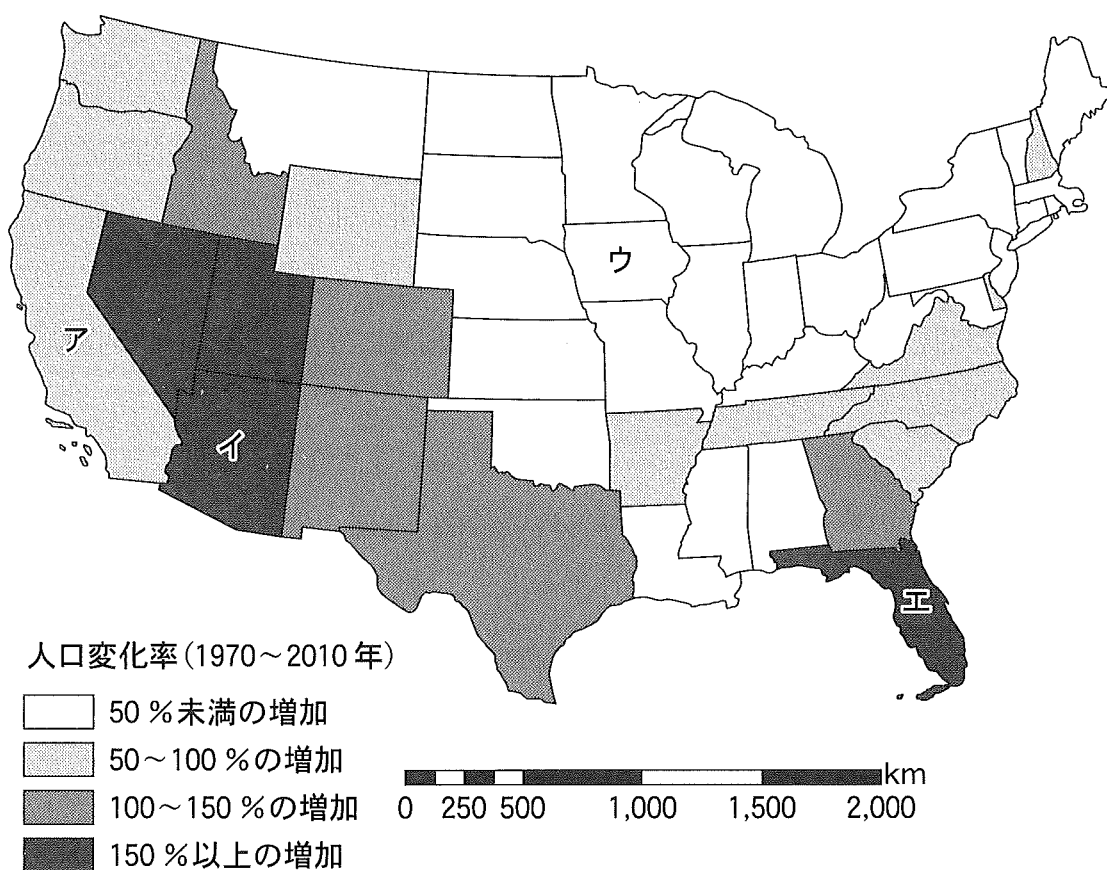


図2—1

アメリカ・センサス局による。

表2—1

(2010年)

州名	ヒスパニック系人口比率(%)	75歳以上人口比率(%)
ア	37.6	5.3
イ	26.5	4.7
ウ	5.0	7.5
エ	22.5	8.1

アメリカ・センサス局による。

設問B

広大な国土と大人口を有するブラジルは、経済開発の状況に大きな地域的差異を伴いながら、国家としての経済発展を遂げてきた。こうした地域的な差異は、図2—2に示すように、ブラジルを構成する各州を北部、北東部、南東部、南部、中西部の5つの地域に分けてその特徴や課題が把握されることが多い。表2—2は、ブラジルのGDPと人口をこの5地域に分割し、関連する指標とともにまとめたものである。

(1) 表2—2のア、イ、ウに該当する地域名を、北部、北東部、南部の3つの地域の中から選んでア—ウのように答えよ。

(2) 表2—2ではGDPのシェアが上位の地域から並べられているが、2002年を100としたときの2018年のGDPの値をみると順位が逆になる。とくにその値が大きい中西部やウ地域において、この間にどのような経済開発・経済発展がみられたか、これらの地域の自然環境にもふれながら、以下の語句をすべて用いて3行以内で述べよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

ブラジル高原 農地 自由貿易地区

(3) 表2—2からは、ブラジルの深刻な地域的な経済格差が読みとれる。南東部とイ地域の間にはどのような経済格差が読みとれるか、その背景と合わせて2行以内で述べよ。

(4) 南東部には、人口でブラジル第1位の都市サンパウロ、第2位のリオデジャネイロが存在する。これらの巨大都市が抱える問題のうち、国内の地域的な経済格差を背景に持つ問題を、それとの関係が明らかになるように、以下の語句をすべて用いて2行以内で述べよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

低所得層 インフォーマルセクター



図 2—2

表 2—2

地 域	GDP 2018 年 (100 万リアル)	GDP シェア 2018 年 (%)	GDP 2018 年 (2002 年 =100)	人口 2018 年	GDP/人口 2018 年 (リアル)
南東部	3,721,317	53.1	138	87,711,946	42,427
ア	1,195,550	17.1	140	29,754,036	40,181
イ	1,004,827	14.3	152	56,760,780	17,703
中西部	694,911	9.9	173	16,085,885	43,200
ウ	387,535	5.5	178	18,182,253	21,314
全国	7,004,141	100.0	145	208,494,900	33,594

人口は 2018 年推計値。リアルはブラジルの通貨単位。
ブラジル地理統計院による。

第 3 問

日本の都市と農業に関する以下の設問 A～B に答えよ。解答は、解答用紙の(ハ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入せよ。

設問 A

図 3—1 と図 3—2 は、東京都心から北東方向約 30 km に位置する X 市の北部を中心に、異なる時点の国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図をもとに作図したものである。図 3—1 によると、台地の部分で、1960 年代から大規模な土地改変が行われる一方で、従来からの地形と土地利用との対応関係も読みとれる。⁽¹⁾

X 市では、第 2 次世界大戦前に飛行場や軍需工場などが置かれていたが、それらの土地が戦後、アメリカ軍に接収され、その通信施設となっていた。図 3—2 では、米軍通信施設跡地が、大きな公園や総合競技場、住宅団地、大学の新キャンパスに変わっていることがわかる。

図 3—1 と図 3—2 を比べると、交通体系が大きく変わってきたことがわかる。図 3—2 では、高速道路がみられるが、高速道路のインターチェンジ付近を詳しくみると、工業団地の敷地内も含め、新たな施設が建設されてきている。⁽²⁾

鉄道の新線が開通し、新たに駅が設けられたことも大きな変化で、X 市では、図 3—1 の大規模改変とは異なる新しい空間が出現し、これまでの X 市の産業構造を変えるような動きや「スマートシティ」をめざす新たな街づくりが進められてきている。⁽³⁾

(1) 下線部(1)に関して、図 3—1 から読みとれる地形と土地利用との対応関係を、1 行で述べよ。

(2) 下線部(2)に関して、どのような施設が建設されてきているか、そうした変化の理由とともに、2 行以内で述べよ。

(3) 図3—3は、2010年、2015年、2020年におけるX市内のA地区、B地区、C地区の年齢階層別人口構成の変化を示したものである。A地区、B地区、C地区は、図3—2に太枠で示した地区①、②、③のいずれに該当するか、A—○のように答えよ。

(4) 下線部(3)に関して、こうした新たな動きの特徴として考えられることを、以下の語句をすべて用いて、3行以内で述べよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

情報通信技術 新規創業 高齢化社会

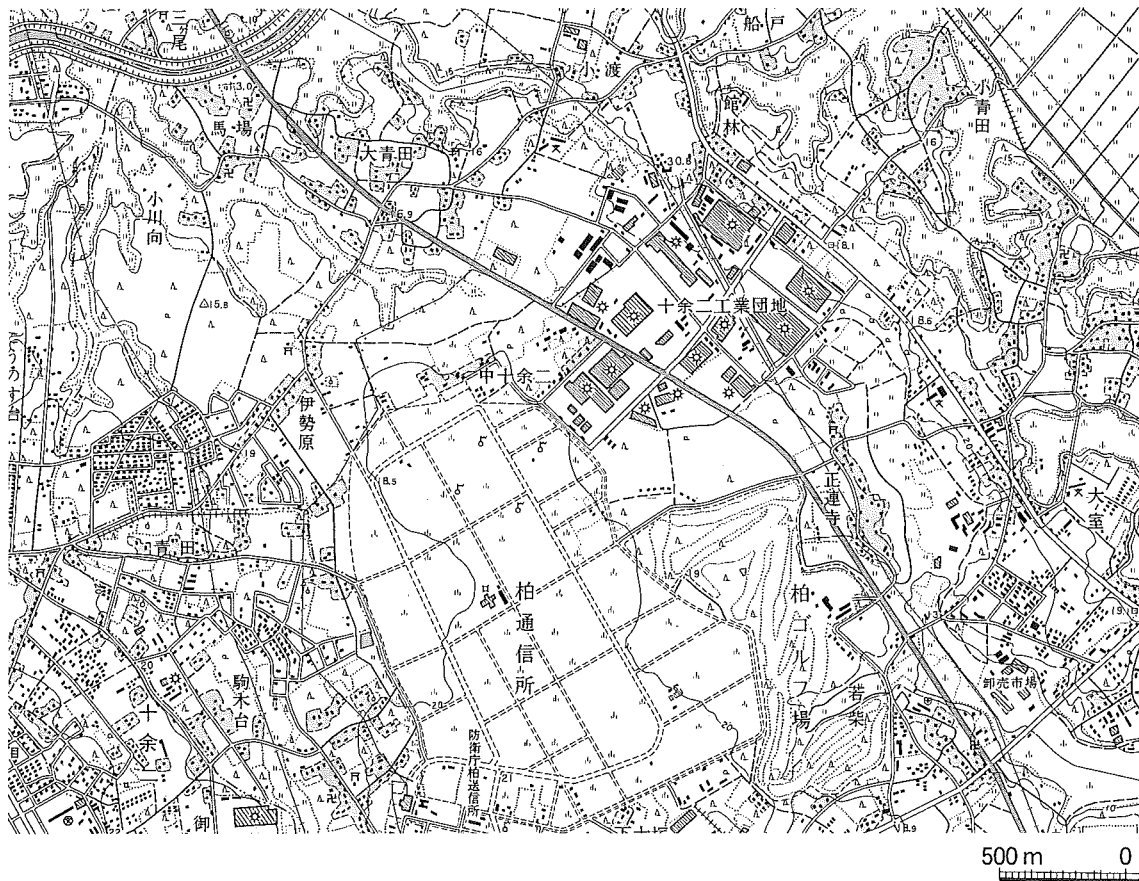


図3—1

1975年発行の2万5千分の1地形図をもとに作図。

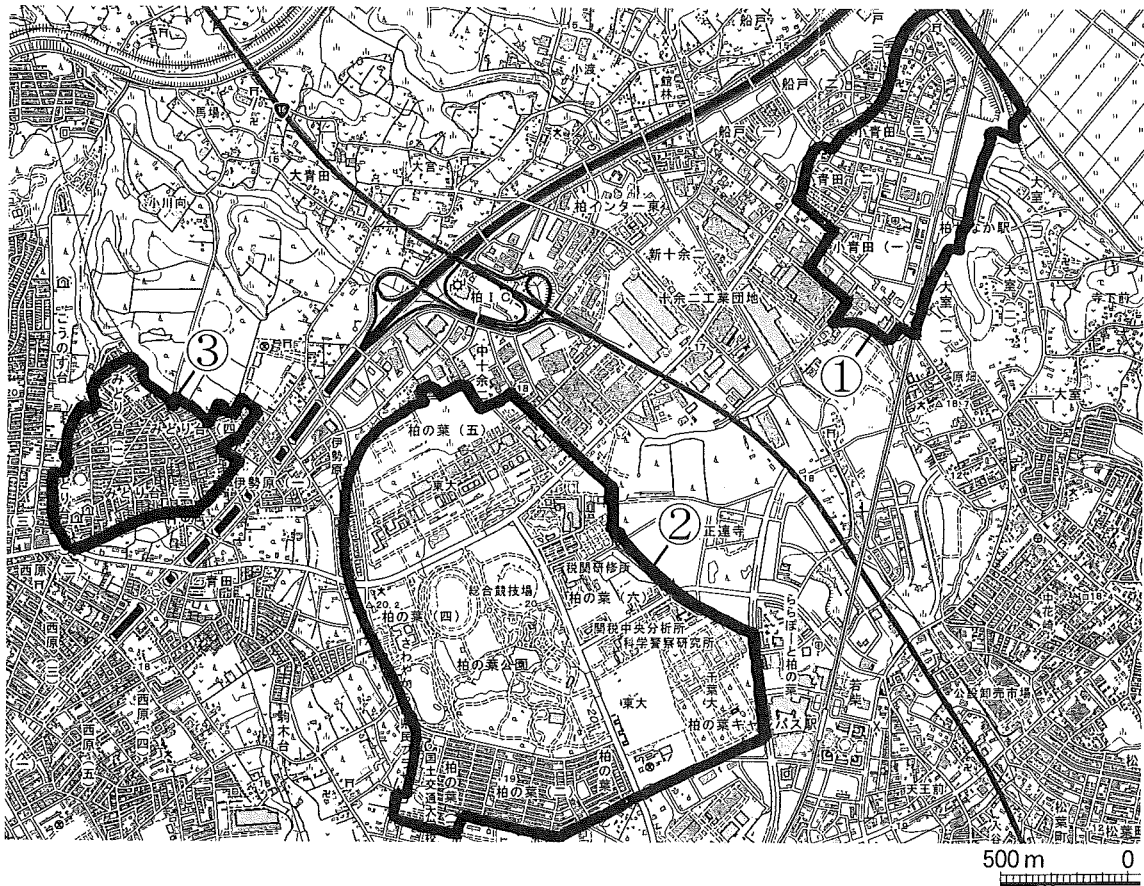


図3—2

2019年発行の2万5千分の1地形図をもとに作図。

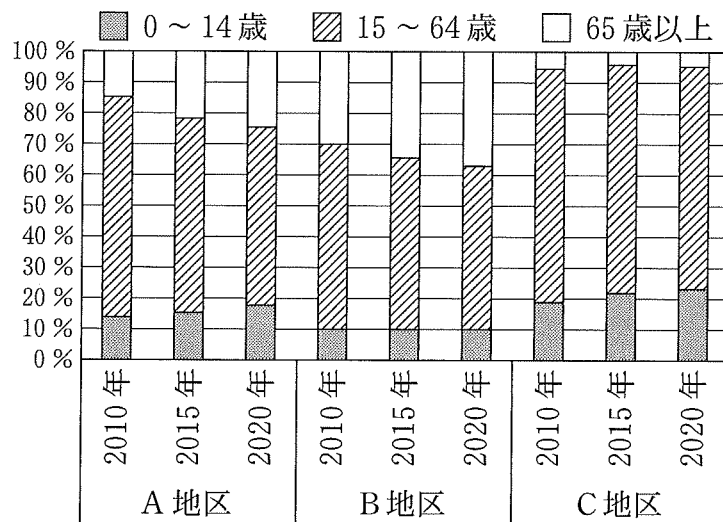


図3—3

X市の統計書による。

設問B

日本の果樹生産は、様々な社会経済的事象に影響を受け、戦後から現在にかけて変化してきた。表3—1は、果樹5種の2018年の都道府県別収穫量を、上位5都道府県に絞り示している。また、図3—4はみかんとりんごの1960年から2018年までの作付面積の推移を表す。図3—5と図3—6は、みかんとりんごそれぞれについて1990年から2018年までの輸出量と輸出先を示している。

- (1) 表3—1のア～ウに該当する県名を、それぞれ、ア—〇のように答えよ。
- (2) 表3—1によれば、ブルーベリーの収穫量第1位は東京都である。東京都でブルーベリーの栽培が盛んな理由を1行で説明せよ。
- (3) 図3—4をみると、みかん、りんごともに現在の作付面積は1960年比で減少しているが、その推移は両者で異なっていることが読みとれる。みかんの作付面積が一旦大きく増加しその後減少した理由を、以下の語句をすべて使用し、3行以内で説明せよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

政 策 需 要 生産調整

- (4) 図3—5と図3—6の輸出量をみると、みかんについては減少傾向である一方、りんごは増加傾向にある。りんごの輸出量が増加している理由として図3—6から考えられることを、2行以内で説明せよ。

表3-1

順位	みかん		りんご		なし	
	1	ア	155,600	青森	445,500	ウ
2	静岡	114,500	イ	142,200	茨城	23,800
3	愛媛	113,500	岩手	47,300	栃木	20,400
4	熊本	90,400	山形	41,300	福島	17,100
5	長崎	49,700	福島	25,700	鳥取	15,900

順位	うめ		ブルーベリー	
	1	ア	73,200	東京
2	群馬	5,740	群馬	271
3	三重	2,090	イ	259
4	神奈川	1,810	茨城	240
5	イ	1,770	ウ	105

単位：トン

果樹生産出荷統計(みかん、りんご、なし、うめ)および特産果樹生産動態等調査(ブルーベリー)による。

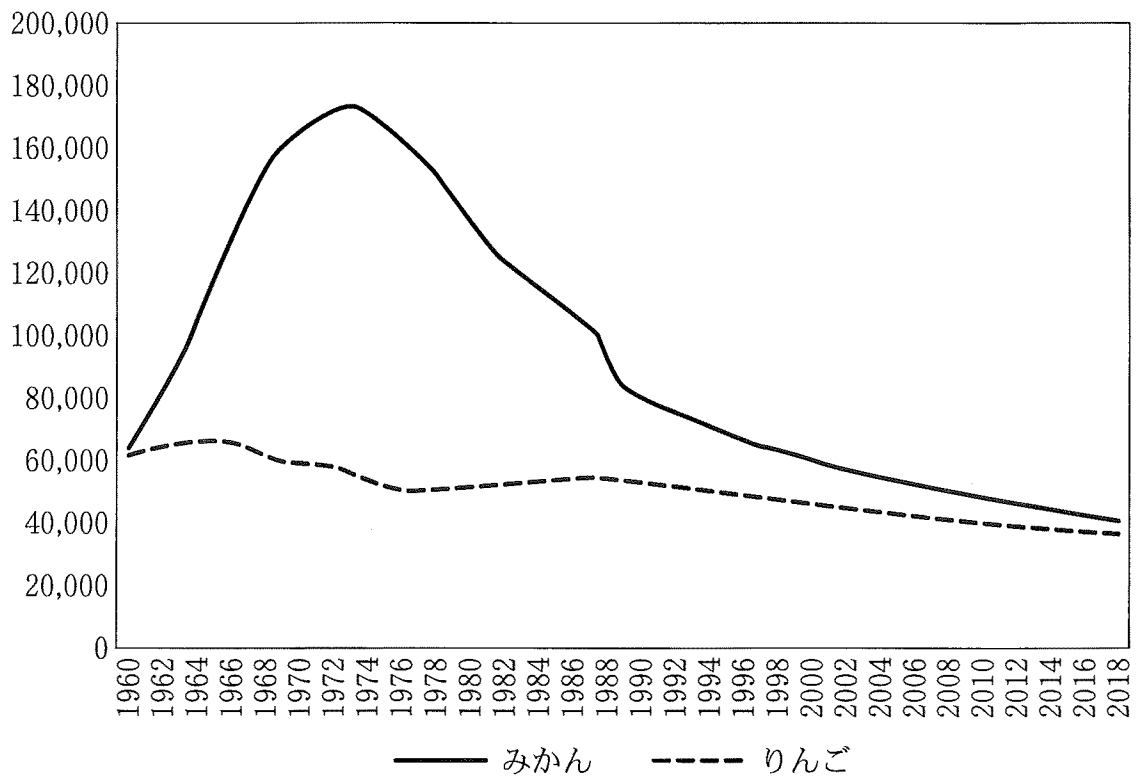


図3-4

単位：ヘクタール

耕地及び作付け面積統計による。

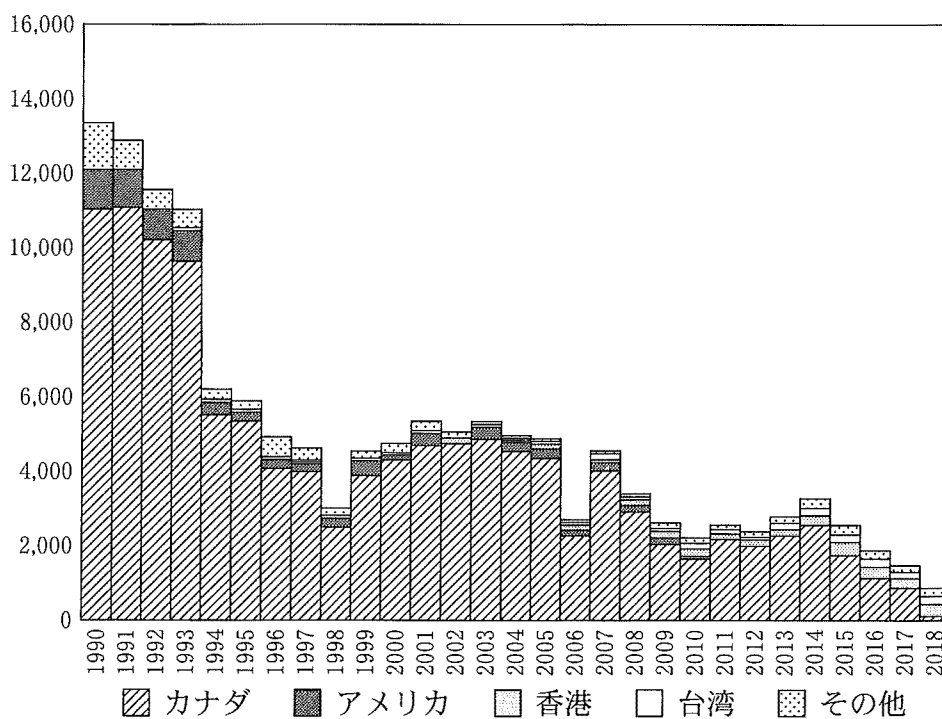


図 3—5

単位：トン

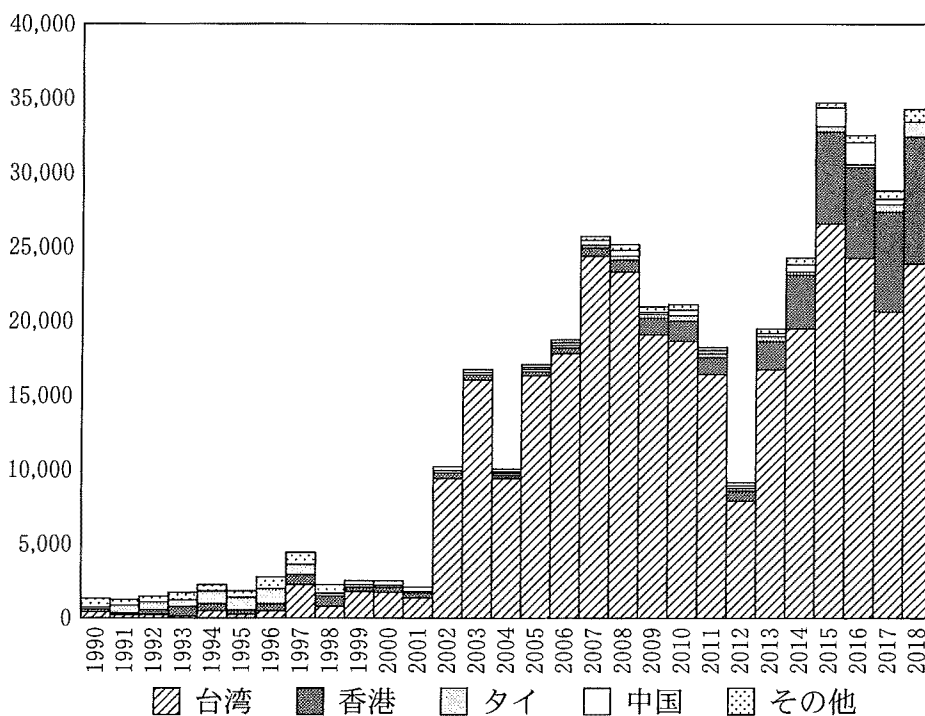


図 3—6

単位：トン

図 3—5, 図 3—6 は, どちらも貿易統計による。(川久保 2019 を改変。)